

「簿記学習指導案」

日 時 令和元年10月15日(火) 3校時
場 所 1年4組教室(B棟3階)
対 象 情報処理科1年4組
(男子17名 女子16名)
授 業 者 下 川 智 子

- 1 単 元 名 第11章 商品売買の取引
- 2 教 科 書 新簿記(実教出版株式会社)
- 3 副 教 材 最新段階式 簿記検定問題集 全商3級 改訂版
- 4 単 位 数 3単位
- 5 指 導 目 標 商品有高帳について役割を理解し、その記入方法(先入先出法)について習熟させる。
- 6 生徒の実態

本学級の生徒は全体的におとなしく、積極的に発言する生徒が少ない。簿記の学習に対する苦手意識から、学習意欲が高まらず、つまずくと学習に取り組みなくなる様子が見受けられる。しかし、ペア学習やグループ学習を取り入れると理解度の早い生徒が、自ら進んで言葉をかけ、助け合いながら学習を進めることができている。

これまでの学習について、十分理解できているとはいえないが、授業では発問や演習問題を繰り返し行うことで、自ら質問したり、課題に取り組んだりしようとする生徒もではじめている。
- 7 指 導 観

生徒の実態を把握しながら、簿記に対する苦手意識を持たせないよう、ポイントとなる箇所は丁寧に指導をしていく。また、簿記を学習していくなかで、生徒が学習内容を整理できる教材を用いて、意欲的に取り組めるような指導の工夫もしていきたい。

また、授業時には毎時間通じて生徒への発問を図り、考える力を付けさせる。その際、生徒同士で教え合う時間などを作り、簿記に対する苦手意識を克服し、意欲的に学習に取り組む態度を育成する。

簿記の指導において大切なことは、生徒が簿記を「わかる」から「できる」へ、そして「使える」までに到達することであると考え。なぜ「商品有高帳」が必要なのか、しっかりと理解したうえで記帳できるよう根気強く指導していきたい。
- 8 指 導 計 画 第11章 商品売買の取引
 1. 分記法
 2. 3分法
 3. 仕入帳
 4. 売上帳
 5. 商品有高帳(本時)
- 9 本時の目標
 1. 商品有高帳の役割について理解させる。
 2. 商品有高帳の先入先出法について理解させる。

10 単元の評価基準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
説明を真剣に聞き、意欲的に問題に取り組む姿があるか。また、分からない所を質問し、理解しようとしているか。	商品有高帳の役割について考えることができたか。	商品有高帳の記入方法について、その技術を身につけることができたか。	商品有高帳を作成するために必要な知識を身につけ、理解することができたか。

- 11 本時の評価
1. 商品有高帳の役割を理解させることができたか。
 2. 商品有高帳の記帳に関する知識と技術を身につけさせることができたか。

12 本時の展開

段階	時間	学習内容と学習計画	指導上の留意点	評価等
導入	10分	<ol style="list-style-type: none"> 1 挨拶，出席確認をする。 2 本時の学習課題を確認する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 学習課題：商品を効率よく売するために必要なものは何か？ </div>	<ol style="list-style-type: none"> 1 服装，態度をしっかりと確認する。 2 本時の課題を発表し，生徒に意識付けをする。 <ol style="list-style-type: none"> ①興味関心を高められる教材を用いる。 ②購買の模擬活動を取り入れ，商品の流れを視覚化する。 ③課題「効率良く売するために」を強調し，必要なことを生徒に考えさせる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 授業に取り組む準備・姿勢が整っているか。 【関心・意欲・態度】 2 本時の学習課題を理解し，関心・意欲をもつことができたか。 【関心・意欲・態度】

展 開	3 5 分	<p>3 商品有高帳の記帳項目について学ぶ。 ※別紙プリント 演習問題</p>	<p>3 商品有高帳を共に記帳しながら記帳法を確認させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日付 ・摘要 ・受入 ・払出 ・残高 	<p>3 商品有高帳の役割について理解できたか。 【知識・理解】</p>
		<p>(1) 先入先出法について学ぶ。</p> <p>4 商品有高帳の留意点について学ぶ。</p> <p>5 問題集 P59 14-1 を解く。</p>	<p>(1) 払出単価(先入先出法)について理解させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先入先出法の場合、単価の欄から記入させる。 <p>4 留意点</p> <ol style="list-style-type: none"> ①商品ごとに作成する ②先入先出法 ③払出欄の単価に売価を記入する誤りが多いので、単価は必ず残高欄の単価を記入することを徹底させる。 ④単価の違うものが2種類以上ある時は{(なみかっこ) でくくることを説明する。 ⑤合計線や締切線，次月繰越を赤で記入しなければならないところを説明する。 <p>5 机間指導を行い生徒の理解度を確認し，理解不足の生徒には個別指導を行う。</p> <p>※全体的に理解不足の点があれば再度，黒板等を使用して説明する。</p>	<p>(1) 先入先出法について理解できたか。 【知識・理解】</p> <p>4 記帳法について理解できたか。 【技能】</p> <p>5 積極的に問題を解こうという意欲があるか。 【関心・意欲・態度】</p>
ま と め	5 分	<p>6 本時のまとめ</p> <p>7 次時の予告</p>	<p>6 板書を利用し本時の内容(商品有高帳の役割・記入法)を振り返り確認する。</p> <p>7 次時は商品有高帳の移動平均法について学習することを予告する。</p>	<p>6 本時の内容を理解できたか。</p>

情報処理科 1 年 4 組 () 番 氏名 ()

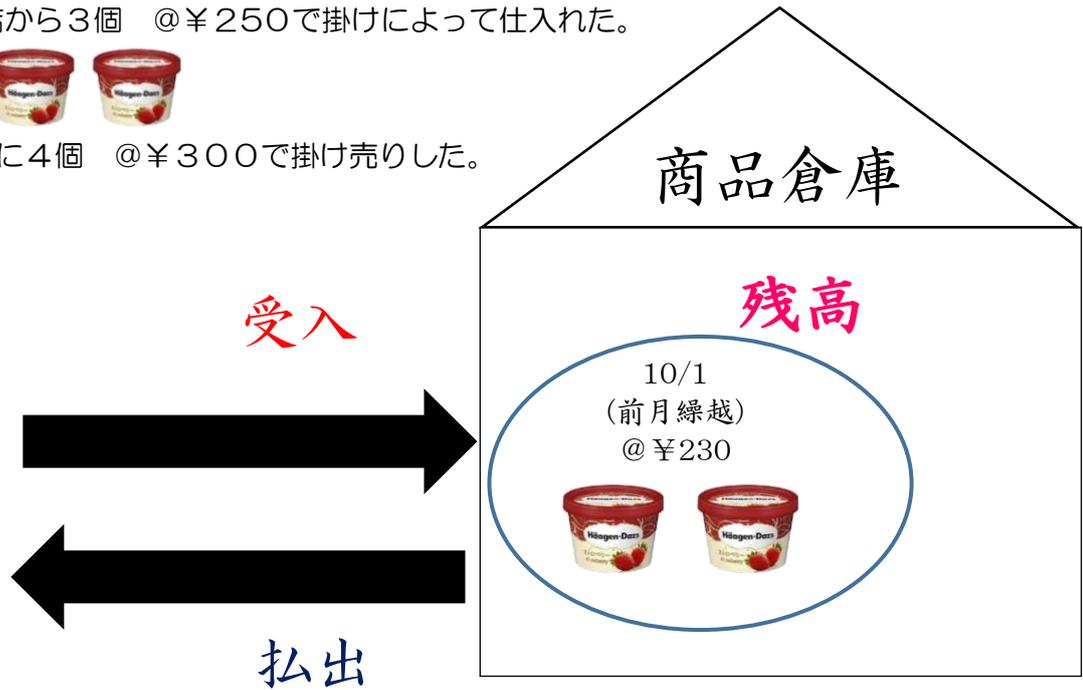
☆本時の学習課題：商品を効率よく売るために必要なものは何か？ (**商品有高帳**)

① 次のアイスクリーム（ストロベリー味）の取引を商品有高帳に先入先出法によって記入し，締め切りなさい。なお，開始記入は省略する。

10月 7日 奄美商店から3個 @¥250で掛けによって仕入れた。



10日 名瀬商店に4個 @¥300で掛け売りした。



商品有高帳

(先入先出法)

品 名 ハーゲンダッツ (ストロベリー味)

単位：個

令和 〇年	摘 要	受 入			払 出			残 高		
		数量	単価	金額	数量	単価	金額	数量	単価	金額
10	1 前 月 繰 越	2	230	460				2	230	460
	7 奄 美 商 店	3	250	750				2	230	460
									3	250
	10 名 瀬 商 店				2	230	460			
						2	250	500	1	250
	31 次 月 繰 越				1	250	250			
		5		1,210	5		1,210			

LHR指導案

学校名 鹿児島県立奄美高等学校

日 時 令和元年12月17日（火）3校時

場 所 情報処理科1年4組

（男子17名 女子16名）

授業者 下川 智子

1 主題 自己理解と他者理解

～「権利の熱気球」～

2 主題設定の理由

子どもから大人への過渡期にある高校生は、自立に向けて心身ともに大きく揺れながら成長している。これからの人生を自分らしく歩いていく力を培うために大きな土台となるのは、「ありのままの自分を受け止め見守ってくれる安全で安心できる居場所があり、家族や周りの人たちから愛されている、認められているという思い」だと言われている。そこで、「権利の熱気球」というワークショップを通してそれぞれ自分が大切にしているものを発表しあうことにより他者（友人）との考え方の違いを認め、違っていいと言うことを確認し、自分自身に少しでも自信が持てるようになればと思い、本主題を設定した。

3 ねらい

「権利の熱気球ゲーム」（10個の権利をもって熱気球に乗っていたが、故障し飛行高度がどんどん下がってきたため、権利をひとつずつ手放さなければならない。最初に手放す権利は何か。最後まで手放

せない権利は何かを、個人・グループで考える)を通して、

(1) 権利に対する考え方や自分自身の価値観を発見させる。

(2) グループ討議を通して、権利に対する考え方や価値観は人それぞれであることを認識し、互いの人権を尊重する態度を身につけさせる。

4 生徒の実態

高校生活にも慣れてきたようで、授業や部活動など積極的に取り組む姿も見られるようになった。また、体育祭や文化祭などでは、クラスが盛り上がりを見せ、学校行事を経るたびにそのまとまりをより一層強くしている。しかし、その一方で普段は比較のおとなしい生徒も少なくない。仲の良いグループでは積極的に話しをするが、それ以外ではなかなか打ち解けられず、自分を表現することを苦手としている生徒も見受けられる。

そこで今後は、それぞれが自分自身をしっかり見つめ、また自分の周りにいるクラスメイトについても理解を深めることで、さらにクラスの一体感・連帯感を深めていって欲しい。

5 指導観

自分が最も大切にすることは何か、他者が最も大切にすることは何か、様々な権利の順位付けを通して、生徒は様々な考え方があること、そして自分の考えと他者の考えには違いがあることに気づくはずだ。

まずは自分の考えを整理し、次にグループ内で他者の考えに触れる機会を設定する。個からグループへグループから全体へと学習形態を広げていき、話し合いが深まるように配慮する。各自が権利の順位付けの作業を通して、自己の認識を深め、さらに話し合い活動を通して他者への理解を深められるように指導していきたい。

6 本時の目標

自分の考えを発表したり友達の意見を聞いたりする中で、お互いの考え方の違いを認め自分自身に自信を持つ。

7 本時の展開

時間	形態	学習内容と学習計画	指導上の留意点	評価等
10分	全	<p>1 挨拶，出席確認をする。</p> <p>2 本時の目標を知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 熱気球を飛ばし続けるために、あなたが手放すものは何、～ </div> <p>3 本時の学習内容を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ① 10個の荷物確認 ② 権利の並べ替え ③ 順位付けの理由 ④ グループで意見交換・発表 </div>	<p>1 服装，姿勢をしっかりと確認させる。</p> <p>2 学級全体に目を配る。 ・熱気球の写真を提示し、「権利の熱気球」につなげるようにする。</p> <p>3 本時の流れを提示し，生徒に学習の見通しをもたせる。 ・ワークシートの配布をする。</p>	<p>1 授業に取り組む準備・姿勢が整っているか。 【関心・意欲・態度】</p> <p>2 本時の学習目標を理解し関心・意欲をもつことができたか。</p> <p>3 本時の学習内容(権利の熱気球)のやり方を理解したか。 【関心・意欲・態度】</p>
35分	個	<p>4 「権利の熱気球」について知り，自分の考えをまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ① 10個の荷物の確認 ② 権利の並べ替え ③ 理由書き </div>	<p>4 何が今の自分にとって大切か，個で考えさせる。 ・机間支援しながら，個々の考えを確認する。</p> <p>5 主張し合うことの大切さや様々な考え方があることを知り，自己理解をより深め，自他の違いに気づかせる。 ・友達の考えをうなずきながら聴き，相手が話しやすい雰囲気が必要であることを助言する。 ・所属グループから全体へと視野を広げ，様々な考え方があることに気づかせる。</p>	<p>4 積極的に取り組もうという意欲があるか。 【関心・意欲・態度】 自分の考えを整理できたか。 【思考・判断・表現】</p> <p>5 自分の意見を適切に表現することができたか。 【思考・判断・表現】 他者の意見を真剣に聞き，他者の考えに対する理解を深めることができたか。 【知識・理解】</p>
	グループ	<p>5 発表を通して他者の考えに触れる。</p> <p>① グループで意見交換</p> <p>② 各グループごとの気づきをまとめる。</p> <p>③ 各グループごとの気づきを発表する。</p>		
	全	<p>6 活動を終えて気づいたこと，感じたことをまとめる。</p>		
5分	全	<p>6 活動を終えて気づいたこと，感じたことをまとめる。</p>	<p>6 権利の序列づけが本来の目的ではなく，人によって権利の重要度の捉え方や価値観が多様であること，どれもかけがえのないものとして尊重しようとする意識を持つことを全員で確認できるようにする。</p>	<p>6 自他の考え方の違いに気づき，それぞれの違いを認め合うことができたか。 【思考・判断・表現】</p>

8 評価の観点

評価Ⅰ 集団活動や生活への 【関心・意欲・態度】	評価Ⅱ 集団行動や生活についての 【知識・理解】	評価Ⅲ 集団や社会の一員としての 【思考・判断・表現】
「権利」について自分の考えを述べたり、他者の考えを聞くことに積極的に取り組んでいる。	生きていく上で自分にとってどのような権利が大切かを、考えている。	自分の考えを整理したり、他者の考えを理解したりすることによって自分自身の認識を深めることができることに気付く。

1年4組 LHR ワークシート①

1年4組()番 氏名()

権利の熱気球

あなたは今、10個の荷物とともに地上高くに漂う気球に乗っています。
ところがどうしたのか突然、気球が落下し始めました。
下は海。しかも海には人食い鯊が大きな牙をむけて待っています。
積んである荷物（権利）を捨てて軽くしなければ海にドボン…。
気球は落ちてしまいます。



さて、あなたならどの荷物（権利）から順番に捨てていきますか？

(1) 権利の熱気球カードの中から一番必要でない（最初に手放す）権利をひとつ選び ⑩ のところに貼りましょう。

(2) 続けて必要でない権利を選び、⑨ → ⑧ と貼っていきましょう。

作業

- ① まず、自分で考えてみよう。
- ② 次に、グループのみんなで考えを深めてみよう。 ※話しやすい雰囲気、聞く態度。
友達の考えをワークシートに記入しよう。
- ③ 友達の意見の中で印象に残っていること、気付いたことを書いてみよう。

権利の熱気球



一番最後まで残す権利。※手放せない権利



順位	権 利	なぜ一番最後まで残したのかその理由
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		なぜ一番最初に捨てたのかその理由
9		
10		

一番最初に捨てる権利



ア. 本を読む権利

イ. お金を自由に
使う権利

ウ. きれいな空気を
吸う権利

エ. 十分に遊んだり
、休養したりする
時間を持つ権利

オ. 愛し愛される
権利

カ. 自分だけの空
間（部屋）をもつ権
利

キ. 自分の考えや意
見を聞いてもらえ
る権利

ク. 自分の携帯
電話（スマホ）を持
つ権利

ケ. 知りたいことや
学びたいことを勉
強する権利

コ. いじめられたり
、命令・服従され
ない権利

※ 服従とは、他の意志や命令に従うこと。

権利の熱気球



一番最後まで残す権利。※手放せない権利



順位	名前	記入例					
		A					
1		オ					
2		ウ					
3		エ					
4		キ					
5		コ					
6		ケ					
7		カ					
8		イ					
9		ア					
10		ク					

一番最初に捨てる権利



1. 仲間の意見の中で印象に残っていることを書いてみよう。

2. 権利の熱気球の学習をとおして、あなたは今後どのようなことを大切にしていきたいと思いますか？
